AFPY の手法を生かした道徳教育

２００４年度　小学校　５年

【Adventure Friendship Program in Yamaguchi（ＡＦＰＹ）の活用】

学級という集団づくりは、子どもたちの学校生活でのすべての教育活動において行われるものであろう。その一つの方法として、「自信の回復と仲間づくり」のための様々なアドベンチャープログラムを提供する団体であるプロジェクト・アドベンチャー（ＰＡ）の教育手法であるグループチャレンジによる課題解決活動を中核とする活動（ＡＦＰＹ）を、積極的に取り入れている。これは、「一人では困難な課題であっても、集団が協力すれば解決（達成）できるという体験を通して、あたたかい集団づくりをめざす」ということをねらいに紹介されたものであり、その学習過程は、大きく分けると「課題の提示・説明」「実施」「振り返り」の３つに分けられる。

この教育手法は、課題を解決することがねらいではなく、その過程を重視しており、カウンセリングの理論を背景としている。活動をしているときの子どもたちの動き、言葉のやりとり、仲間とのかかわり方などを指導者はできるだけ見逃さないように把握し、それを活動中や活動後の振り返りにいかに生かすかということが、重要なポイントとなる。子どもたちの言動に対して敏感になり、それをいかに受け止め、子どもたちに返していくかということは、特にこの課題解決活動に限って必要とされるものではなく、教育全般にわたって必要なことであり、子どもたちの日常生活でのいろいろなトラブルや不適切だと思われるような活動は、多くのことを学べる「課題」となるものであろう。

ＡＦＰＹは、子どもたちの実態を踏まえて行うものであり、次のような点において有効だと考える。

〇ゲーム的要素の強い活動過程において、子どもたちは楽しみながらも本音が出ることも多く、人間関係が表面化する。⇒自分たちの人間関係の実態を見つめることができる。

〇課題を解決するための方法を学ぶことができる。（話し合いの仕方、挑戦すること、など）

〇「もっとこんな力を育てたい！」という教師の思いから、意図的に活動を仕掛けることができる。

したがって、目の前の子どもたちの人間関係や集団の中でのかかわり方などの状況を見ながら、「今、この子どもたちにとって、必要なことは何か」「もっと、こんな集団に高まってほしい」という観点から活動のねらいを明らかにし、必要に応じて課題解決活動を行っている。

【体験サイクル】

①体験する　…　何かしてみる＜自分の具体的な体験＞
②指摘する　…　何が起こったか、プロセスを見る＜体験のわかちあい＞
③分析する　…　どのように、なぜ起こったか、プロセスを考える＜自己評価・相互尊重＞
④仮説化する　…　学んだことは？＜体験が私に教えてくれたこと・新しい自己への気づき＞
⑤試みる　…　プランを立てて実行する＜具体的な計画＞

※体験を通して学んだり発見したりしたことを具体的な行動に結びつけ、日常生活のいろいろな場で積極的に試みられるように。

【学級づくり案】

＜１＞本学級の子どもたち～４月

〇５年生　１８名

〇個性豊かで、一人一人自分の思いを持っている。

〇自分の思いをうまく人に伝えることができにくい子が多い。

- 感情的に伝える子
- 攻撃的な話し方をする子
- 思いはたくさんあるが、言えずにいる子　　など

このために感情がぶつかり、口論になったりトラブルが起きたりすることがしばしばある。

〇行動力があり、いろいろなことに取り組んでみたいという意欲が旺盛である。

〇固定的な人間関係が見られる。

＜２＞育てたい力

子どもたち一人一人が、周囲の人や社会とうまく関わりながら、自分の力で主体的に生きていくことのできる力を育てたい。そのためには、

・自他の心とからだを大切にする。

・自分の思いを言葉にしてはっきり伝える。

・周囲の言葉や情報に耳を傾け、それを適切に取捨選択する。

・自分の行動に責任をとりながらその場の状況を適切に判断し、自分のできることを見つけて実践する。

・自分自身を肯定的に受け入れ、自分に自信を持つ。

というようなことを大切にしていきたい。

これらは、学級という一つの「社会」の中で自ら気づき、いろいろなものや人の影響を受けながら学んでいくことが多いと考える。考え方、得意･不得意、好み、体つき等、一人一人の違いを個性として認め合い、お互いに大切にし合えるような集団として高めていきたい。また、感情的にならずに、互いの人格を尊敬し合いながら、本音を出し合い協調的に話し合える人間関係と信頼関係を築いていきたい。

＜２＞具体的な努力点

〇子どもたちが、心やからだを傷つけるような言動をすることがないように気を配りたい。そのためには、それらに対して敏感に反応できる教師自身の人権感覚と子どもたちの人権感覚を、教育活動全体の中で磨いていきたい。

〇子どもたちが主体的・創造的に学習に取り組めるように、「学び方」や「ものの見方、考え方」を身につけるための学習の機会を多く作っていきたい。また、子どもたち一人一人の発想をお互いに柔軟な姿勢で受け止め、考え、より高めていくような授業作りをしていきたい。

〇子どもたちが学んだことが生活の中で実践的に生かされるようにするために、また、自分や学級の姿を実際に見つめ考えることができるように、体験的な活動を積極的に取り入れていきたい。

〇教師が子どもたちに事前に多くの指示をして失敗や間違いを予防するのではなく、体が傷つかないことであれば、子どもたち自身がさまざまな体験をし、自分で学びとってほしい。そのためには、教師ができるだけ指示をせずに子どもたちの判断に任せるようにするとともに、子どもたちの失敗や間違いが多くのことを学ぶ絶好の機会として次につながるように支援していきたい。このような取り組みを通して、その場に応じた適切な意思決定と行動の選択能力を育てていきたい。

〇子ども一人一人の行動は、時には不適切なこともあろうが、子どもたちを信頼し、すべて「よい目的」のために行われているものとして肯定的に受け止め、その上で、適切な行動をともに考えていきたい。

〇家庭との連携を深め、お互いに子どもたちを一方的ではなく多面的にとらえ、そのよさを伸ばしていくことができるようにしたい。そのためには、子どもたち一人一人の学校での姿をできるだけ家庭に伝えるための努力をしたい。

【ＡＦＰＹの取り組み～子どもたちの変容～】

○始業式の日

学級で入学式についての説明をしているとき・・・ざわざわ

Ｔ：大切な入学式について話をしているので、私の話を聞いてください。

～多くの子どもは、雑談・よそ見をやめ、話を聞こうとしてくれた。Ｈさん、雑談し続ける～

Ｔ：Ｈさん、話をやめて聞いていただけますか？

Ｈ：「いや」って言ったら？

Ｔ：「じゃあ、残念ですが、出て行ってもらうしかありませんね。だって、私は、大切な入学式の話をしているのですから。」

～Ｈさん、そのまま話をやめ、前を向いて静かに座っていてくれた。～

＜４／１２＞　ガチャ（おにごっこ）、カウントアップ、ワープスピード、ビーイング

みんなで楽しもう！　→　どんなクラスにしたい？

＊　「楽しく、安全に、公平に、一生懸命に」

○ガッチャ（円になってのおにごっこ）

・Ｉさんと組もうとしない。「走らない」というルールが守れず、しばらくすると走り始めた。途中で活動を止めてルールの確認をし、再び始めた。少しの間は守れたが、そのうち、ふざけ半分にする子どもが数名いて、雰囲気が悪くなってきた。

○カウントアップ

・人のことを考えず自分ばかり言おうとするので、１～５までくらいしか続かない。

Ｔ：このままでは、きっと１８まで数えられないよ。

一人で数えるのではなく、１８人でするんですよ。

子どもたちは話し合いをすることもなく、活動を再開。始めに男子が全員言い、その後、待っていた女子が言った。３回目くらいでできた。

○ワープスピード

・ボールを回す順番を確認して、ゲームを始めた。まるで相手のことを考えずに投げる子が多く、「１個」のボールがみんなに回らない。

Ｔ：落とさないようにパスして回すんです。おとさないようにですよ。

Ｃ：もっとちゃんと投げようやあ

Ｃ：とりやすいように投げんと・・・

「１個」クリアー

・Ｔ：２つにします。作戦タイムは？

Ｃ：いらん

また、好きに回し始める。すぐにひっかかり、また、挑戦。その繰り返し。

Ｔ：このまま続けても、できないように思うのですが、作戦タイムはいりませんか？

Ｃ：作戦タイムをとろうやあ　　～作戦タイムをとることになる～

Ｃ：真剣にやろうやあ

とりやすいように投げようやあ

投げる人の名前を呼んだら？

それから、ちゃんと見るようにしようやあ。

初めて、子どもたちが自分たちで話し合い始めた。始めから真剣にやっていた子にとっては、相手のことを考えずに投げたりふざけ半分にやったりする子に対して、しだいにストレスがたまってきたようである。

この話し合いの後、「２個」「３個」は、すぐにクリアー。

・「４個」に挑戦。しばらくして、またふざけ始める子が出てきた。フリュバリューコントラクト、ルールの確認をした。数人の子から「ちゃんとやろうやあ」という不満の声。ふざけていた子どもたちも機嫌が悪くなり、とても「楽しい」という雰囲気ではなくなった。
・活動を中断して、ふりかえり。すぐにできた「２個」「３個」のときは、なかなかできなかった「１個」のときや全然できなかった「４個」のときとどこが違うのか・・・

ふざけないで真剣にすること
人のことを考えること

○~~ビーイング~~

今日の子どもたちの状況では、まだ、みんなで「こんなクラスにしたい！」ということを考えるのは難しいと感じた。　→　次回に

・子どもたちの人間関係がよく見えた。固定的な関係があり、さけられている子もいる。男女の仲が悪いわけではないが、円になるときも、活動をするときも話し合いも、男女が別れる。
・一つのことを全員で真剣に取り組むことがまだ難しい。
　しかし、この子たちならやればできる強いパワーを感じる。
・集団の中での一人であり、助け助けられて生きていることを感じてほしい！
　気づいてほしい！

＜４／１４＞　フープリレー、ビーイング

友だちのことを考えて　→　こんなクラスに！
＊　友だちのことを考えて、わかろうとする気持ちが持てたか。
＊　友だちの意見をよく聞き、大切にしたか。
＊　発想の転換や、ねばり強い試行錯誤を繰り返せたか。

○フープリレー
・１回目の挑戦・・・１分３７秒
　Ｔ：目標は？
　Ｃ：１分を切ろう
　Ｔ：作戦タイムは？
　Ｃ：作戦タイムをとろうやあ
　Ｈ：反対に回してみよう
　Ｃ：反対？やりにくいんじゃないん？でも、やってみんにゃあわからんね。反対でやってみん？
　　～反対でやってみる～
　Ｃ：速いような気がする。
・２回目に挑戦・・・１分４秒
　Ｃ：やっぱり、始めの方がやりやすい。
　Ｃ：反対の方がええ気がする。
　Ｃ：やってみて決めよう　　～練習する～
　Ｈ：やっぱり、始めの方がええね。
・３回目に挑戦・・・１分１４秒
　Ｃ：次の人が手をあげたらええんよ。
　Ｃ：終わった人も、持ってかけたらええ。
　Ｃ：頭からはいることにしよう。

Ｃ：でも、下からの方が入りやすい。
Ｃ：自分の早くできるようにしようやあ。

・４回目に挑戦・・・４５秒
～歓声が上がる～
Ｔ：今のみんななら、もっとタイムが縮められそうな気がする。もう１回やってみよう！
Ｃ：うん、やろうやあ！　　～みんなの合意を確認～
Ｃ：４０秒を切ろうやあ
Ｃ：背の順に並び替えようやあ
～作戦タイム中に遊んでいる友だちに「ちゃんとやろうやあ」と。一緒に考え始める～

・５回目に挑戦・・・ぴったり４０秒

・前回より、隙間なくきれいな円を作れるようになった。
・始めは教師から作戦タイムが必要かどうかを尋ねていたが、活動が盛り上がってくると、自然に作戦タイムの話し合いを持ち始めた。
・課題を解決していくことの楽しさを少し感じてきたようで、クリアーするたびに、雰囲気も盛り上がっていった。
・Ｈさんがアイデアをだし、それが受け入れられた。また、Ｈさんのアイデアが実際には余り効果的でなかったと感じたとき、Ｈさん自身がそれを言った。Ｈさんが前向きに、そして、友だちの言葉に素直に反応しながら活動に取り組んでいた。

○ビーイング

・ビーイングについて・・・「こんな自分でありたい！」ということを大判用紙の回りに書こう！耳の形の絵の中に。

それぞれマジックを持って書き始めた。数人、話を聞いていない。その子たちが、好き勝手に書きたいところに書き始め、絵もだんだんふざけてきた。一生懸命に書いていた子たちは、びっくりしたような、どうしたらいいのかわからないような顔で、その子たちを見ていた。どんどんふざけていく・・・

Ｔ：～ビーイングの大判用紙を取り上げ、ぐしゃぐしゃにして裂く～
Ｃ：～一瞬にして、シ～ン・・・子どもたちは、びっくり～
Ｔ：こうして人の話を聞かず自分勝手なことをする何人かの人が、みんなで一つの物を作ろうとするとき、それをぐしゃぐしゃにする。これじゃあ、このクラスのみんなで一つのことをしていくなんてできない。みんなで、楽しいこともできない。この紙が今のこのクラス。でも、もうこんなクラス、今日で終わりにしよう！今日で、さよならしよう！さよならするために、これを破ろうやあ！みんなで破りまくって、さよならしよう。
Ｃ：～子どもたち、大喜びで破り始める～
Ｃ：あ～気持ちよかった！
Ｔ：さあ、新しい出発を！新しい紙にもう１回書きましょう！
Ｃ：～一人一人が一生懸命に友だちの書くところにも気を配りながら書き始めた～

その後、教師は何も言わないのに、散らかった紙くずを掃除する子と給食の準備をする子に分かれて動き始めた。

＜４／１９＞　ヒューマンノット

工夫しよう（１）
＊　何事も、いつもうまくいくとは限らないことを、受け入れることができたか。
＊　アイデアを出して、課題達成に近づこうとしたか。

○ヒューマンノット

・１回目は、２つのグループに分かれて活動をした。

一方は早く解けたが、もう一方は複雑に絡み合って、なかなかほどけなかった。早くできた方の何人かが、しばらくしてもう一方の活動を側で見始めた。約半分の子は、周りで遊んでいた。できない方はがんばっていたけど、あまりに複雑で難しいので、活動をストップ。

次は、１８人全員で行った。ずいぶんがんばっていたが、難しいので中断。

・ふりかえりをした。「友だちのこんな言葉のおかげでうまくできた」「こんな言葉やしてくれたことがうれしかった」ということを出し合った。積極的に声をかけてくれた子の言葉だけでなく、手を下げて通りやすくしてくれた友だちのことにも目を向けている子もいた。しかし、どちらかというと、活動に夢中で、友だちの言動については、あまり目が向いていなかったようである。

・ふりかえりをしているとき・・・

Ｉさんが自分から手を挙げて発言した。

Ｔ：Ｉさん今までこういうとき、あまり言わなかったですよね。

Ｃ：Ｉさんが手を挙げたけえ、びっくりした！

Ｃ：Ｉさん、すご～い！

子どもたちの活動の様子を見て、はっきり見えるものがあった。

・一生懸命声をかけている子

・言われるままにする子

・とりあえず自分のところはほどけたので、それで安心している子。

この関わり方は、日常の学校生活そのものであった。一人一人が大切で必要な存在であること、依存をしないで自分で働きかけること＝自立することを、そういう気持ちと実践力を育てていきたい。

一生懸命声をかけている子　→　人の声にもっと耳を傾けること

言われるがまま、自分ができたらいいという子　→　一人で生きているのではない。たくさんささえ助けてもらっているということ。

Ｉさんが自分から発言し、その勇気を友だちが認めたことは、Ｉさんの大きな成長につながるだろう。

＜４／２６＞　ルックアップ・ルックダウン、視線、こおりお手玉

コミュニケーション

＊　友だちに対して心配りをしたか。

＊　お互いに声をかけ合うことができたか。

＊　友だちの声に反応することができたか。

○こおりお手玉

・１回目は、一人一人が頭の上にお手玉をのせて歩いた。しばらく楽しんだ後、ふりかえり。

Ｔ：やっていてうれしかったことは？

Ｃ：助けてくれたとき、拾ってくれたとき

Ｔ：いやだなあと感じたときは？

Ｃ：拾ってくれなかったとき。

Ｃ：くやしかっった。

・２回目は、何人かは乗せるものを変えて（いろいろなぬいぐるみ）歩いた。途中、ＨさんがＹさん

の頭から落ちたぬいぐるみを蹴った。活動を中止し、円になり活動のふりかえり。
Ｔ：Ｙさん、今、どんな気持ち？
Ｙ：悲しい（目に涙をためていた）
Ｔ：１回目にしたとき、Ｈさんがいやって言ったことは、何だったけ？
Ｈ：拾ってくれなくて、悔しかった。
Ｔ：同じような思いを、今，Ｙさんがしているんですね。みんな、今、楽しい？
Ｃ：あまり楽しくない。
Ｔ：４つの約束（楽しく、安全に、公平に、一生懸命に）は守れているでしょうか？
Ｃ：守れていない。
Ｔ：何が守れていない？
～「楽しく、安全に、公平に、一生懸命に」の４つをみんなでチェック～
Ｃ：「公平に」と「楽しく」が×
Ｃ：この４つが守れないと、楽しくないんだ。
Ｔ：じゃあ、約束を守って、もう１回やろう！

・３回目の活動をし、ふりかえり。
Ｃ：今度は、楽しかった！
Ｃ：ルール、今度は守ったから。

Ｔ：前は、自分に大切にしたこと書いたけど、それは一人ではできない。
Ｃ：うん、一人じゃできん。
Ｔ：みんなでこんなことを大切にしたらいいなと、今日感じたことを書いてください。
～ビーイングに付け加え～
★ みんなが助け合い一生懸命
★ 「ありがとう」と言ってくれた
★ 協力できた
★ ルールを守る
★ 話をよく聞いたから楽しい

活動の中で、「楽しいこと」「うれしいこと」また、「いやなこと」「おもしろくないこと」を子どもたちは実感することができた。みんなが楽しむためには、お互いに尊重しあうための最低限の４つの約束「楽しく、安全に、公平に、一生懸命に」を守ることの大切さも、感じることのできる機会となった。
始めの頃に比べて、子どもたちが自分たちで話し合えるようになってきたし、発言する子の数も増えてきた。話し合いの時に作る円も、友だちの様子を見ながら形よく素早く作るようになった。また、意識して男女が固まらないようにしようとするようになった。

＜５／６＞　長縄跳び～８の字跳び～

目標を持って！　（１）
＊ 「できる／できない」ではなく、自分なりに一生懸命に参加したか。
＊ お互いが参加しやすいように、心配りをしたか。

〇みんなで目標を持って取り組もう！と、子どもたちに長縄跳びの８の字跳びをすることを提案。
目標を何回にするか盛り上がって話し合っていると、急にＨさんが泣き始めた。
Ｒ：Ｈさん、どうしたん？

Ｈ：ぼく、跳べんもん。へたじゃもん。
Ｏ：そんなん、関係ないよ。
Ｒ：うん、別に気にせんでええよ。練習したらええんじゃけえ。
いろいろな子がロ々にＨさんを励ます。Ｈさん、いっしょに長縄跳びを始めた。１回目は、３回。その後、何回かやってみたが、１０回前後でひっかかった。始めは、引きつったような顔で跳び、うまく跳べなかったＨさんも、友だちのアドバイスで、うまく跳べるようになってきた。
Ｒ：Ｈさん、うまく跳べるじゃん
Ｈ：ぼく、うまく跳べるようになった！
子どもたちの話し合いの結果、１学期の目標は１００回に決定。再び挑戦。始めは２０回前後で引っかかっていたが、続き始めた。３０回超えたくらいから、みんなで数える声が大きくなった。ついに１０５回、早くも目標達成！歓声が上がった。
Ｃ：もう、目標を達成した！
Ｃ：目標を変えようやあ！
Ｃ：２００回？、３００回？、５００回？
Ｔ：５年生の間に１０００回！みんなならできる！
少し、休憩をとった。その間、うまく跳べないＩさんにＲさんが跳び方を教えてあげていた。
また、挑戦を始めた。しかし、今度は１０回くらいで引っかかる。数人は一生懸命に声をかけて盛り上げようとするが、真剣じゃない数人のために続かない。いつものルール「楽しく、安全に、公平に、一生懸命に」を確認。Ｒさんは、自分が引っかかると「ごめん！」と。他の子は、言わない。
Ｈさんがふざけながら跳び、ひっかかる。
Ｒ：真剣にやろうやあ
少し続くようになった。Ｈさんも、引っかかったら「ごめん！」と・・・。

友だちの言動をなかなか素直に受け止めることができにくかったＨさんも、友だちのあたたかい言葉に励まされ、注意も受け入れるようになった。
まだ全員が長時間一つの課題に集中して取り組むまでには至らないが、「人ごと」ではなく、しばらくの間でも全員が「自分も１８人の中の一人である」ということを自覚して活動するようになってきた。
誰かの動きやアイデアに頼るのではなく、一人一人が理解して動かないと解決しないような課題をしばらくは提示していきたい。

＜５／１４＞　魔法の鏡

工夫しよう（２）
＊　何事も、いつもうまくいくとは限らないことを受け入れるとともに、そこであきらめずにさらなる挑戦をしようという気持ちを持つことができたか。
＊　発想の転換をし、アイデアを出して課題達成に近づこうとしたか。
＊　友だちの意見に耳を傾けようとしたか。

〇魔法の鏡
・１回目に挑戦。予想通り反対の円ができた。子どもたちは、その円を解き、立ったまま話し合いを始めた。
Ｃ：反対（背中）側から入ったらええんじゃないん？
Ｃ：できるかねえ。
Ｃ：３人くらいでやってみようやあ

～３人でやってみると、うまくできた。

・２回目、背中側からフラフープに入って挑戦を始めた。順にくぐっているうちに、中がぎゅうぎゅうになって、フラフープをくぐったあとの隙間がなくなってきた。

Ｃ：もう入れん！

Ｃ：手が痛い！

Ｃ：３人のときは少なかったけえこんなことはなかったけど・・・

Ｃ：どうする？手を離そうか？

Ｃ：いや、ちょっと待って。あっ、もうフラフープをくぐった人は外へ出たらええじゃん。

フラフープをくぐり終えた子は、手をつないでいる一箇所から、手の下をくぐって外に出始めた。

Ｃ：できそう！

最後の一人がフラフープをくぐったあと、その子だけが反対を向いていた。

Ｃ：ひっくりかえったらええんじゃないん！

見事、課題解決！

・活動の振り返りをした。

Ｔ：１回目にはできなかったけど、どうして２回目にはできた？

Ｃ：反対になったから反対に入ればいいと誰かが言ったけえ、私もそう思った。

Ｔ：だれが言ってくれた？

Ｃ：だれじゃったっけえ・・・でも、できるかどうかわからんかったけえ、３人でテストすることにした。

Ｔ：途中でぎゅうぎゅうになってダメになりそうだったけど、よく復活したね。

Ｃ：だれかが出ていったらええって言ったけえ、ぼくがみんなに大きな声で言った。

Ｔ：みんなうまく出られましたか？

Ｃ：ＡさんとＢさんが出やすいように手を上げてくれた。　・・・・・

課題を解決できたのは、いろんな人がいろんなことを言ったりしたりしてくれているからだということに、少しずつ目が向くようになってきた。また、様々な意見が出たら、失敗を気にせず「とにかくやってみよう！」という全体としての行動力が生まれてきた。固定観念に縛られず、発想の転換をしながら柔軟に考えることもできるようにもなってきた。みんなで課題を解決していく方法がだんだんわかり、そこに楽しさや喜びを感じるようにきたような気がする。

＜５／２１＞　長縄跳び～８の字跳び～

目標に向かって（２）

＊　お互いの立場を尊重し、自分だけではなく全体に目を配ることができたか。

＊　粘り強い挑戦をすることができたか。

○自分たちでいつものように練習を始めるが、ふざけて跳んでいる子が何人かいるので、１０回前後で引っかかる。しばらく様子を見た後・・・

Ｔ：今のみんなに新記録が出るはずがない。何回やっても１０回前後で引っかかる。なぜ、できないんだろう。自分たちの何が、今、問題なんだろう。１０分間、みんなで自由に時間を使ってください。みんなに任せます。

私は、子どもたちのいる所から少し離れた。子どもたちは、円になって話し合いを始めた。しばらく話し合い、再び長縄跳びを始めた。子どもたちから声が出始めた。教える声。「あっ、ごめん！」「もっと真ん中を跳んだ方がええよ。」・・・３回目の挑戦で、なんと、１５０回の新記録。大喜び！！

１０分後に、子どもたちと活動のふりかえりをした。
Ｔ：みんなで何を話し合ったのですか？
Ｃ：真剣にやろう、一生懸命にやろうって。
Ｃ：跳び方も。真ん中で跳ぼうって。
Ｔ：これがみんなの力なんだねえ。技術が急に向上したわけじゃない。いったいどうして、こんなに跳べたんでしょう。
Ｃ：気持ちじゃあ。気持ちで、すごい変わるんじゃあ。

＜５／２７＞　目隠しラインナップ

もっとよく知り合おう
＊　友だちと気持ちを通じ合えたか。
＊　友だちの今まで見えなかった面を知り、友だちのよさをより感じることができたか。

〇課題に挑戦
３人がそれぞれやり方についての自分の意見を出した。他の子は、だまったまま。そのまま活動を始めた。やり方の確認が十分できていないので、途中から声が出て「しゃべらない」というルールが守れない。ルールが守れないので、ゲームをストップ。また、作戦タイムをとるが、３人がアイデアを出し、他の子は聞いているだけ。「わかった？」「はい」・・・これで、２回目の挑戦が始まった。
しかし、やり方がまだよくわかっていない子がいて、また、声が出たので、ゲームストップ。
Ａ：手をたたくタイミングがわからん。
Ｏ：並んだと思ったら、隣の人の肩をたたく。
Ａ：まだ、ようわからん
Ｎ：（話をまとめて、始めから説明）
Ｕ：え？え？さっぱりわからん！
１回目も２回目もわからなくてつい声を出してしまったＨさんが、初めて作戦タイムの時に声を上げた。
Ｔ：Ｕさん、それが大切！わからないことは、とことん聞いたらいいよ。
Ｕさんが繰り返しするいろいろな質問に、始めは言葉だけで何人かが説明していたが、それでもわからないので、わかっている数人で実演し、それをＮさんが解説し、やっとＵさんは理解した。
Ｎ：わからない人？わからん人がおったら成功せんよ。
　　じゃあ、始めようやあ。
こうして話し合った後に始めた３回目は、約２０分かかったが、その間、だれも声を出すことなく、一生懸命にし続け、見事にできた。
〇活動のふりかえり
Ｃ：わからないところがあった
Ｃ：もっと始めに確認しておけばよかった。
Ｃ：ルールがよくわかっていない人がいたので困った。
Ｃ：ちゃんと聞いておくことが必要。
Ｔ：みんなでこんなことを大切にしたらいいなと、今日感じたことを書いてください。
→ビーイングに付け加え　　★わからないことは、人に聞けばいい
★確認する

まだ積極的にアイデアを出す子は限られており、その子たちに依存している子が多い。逆に言えば、自分の主張を一生懸命にしてはいるが、他の意見を聞こうとする姿勢にかける部分がある。「集団で活動をするときには、その一員として自分なりの考えを持ち、それを伝えること」そして、「独走せず、一人一人の考えを尊重すること」の大切さを感じられる活動を考えていきたい。

＜７／１２＞　ローエレクトリックフェンス

友だちって何だろう

＊　自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞いたりしながら活動することができたか。
＊　支えたり、助けたりしてくれる友だちの存在の大切さに気づくことができたか。

〇課題に挑戦

始めのうちはいつもよく発言する数人がアイデアを出し、他の子は言われるがままに動くという状態で、まるでできそうにない。しかし、アイデアを出すのは同じ子たちばかり。しかも、体の大きさや今の並んでいる位置も考えずその子たちが動こうとするから、よいアイデアも生かされず、繰り返し失敗。そのうち、黙っていた子が「台になるの、私がやろうか？」「ぼくもなってもええよ」「背が高い人が台になったらええんじゃないん？」と、口々に言い始めた。やっと、みんなでやろうとする雰囲気になってきた。挑戦中も、声をかけたり様子を見て支えにいったりして、もう少し！というところまでできた。結局、時間がなくなり、また違う日に挑戦しよう！ということで、活動のふりかえりをした。

〇活動のふりかえり

Ｔ：みんなでこんなことを大切にしたらいいなと、今日感じたことを書いてください。

～ビーイングに書き込み～

★　アドバイスをしてくれた
★　みんなで協力したら、無理なことでもできる。
★　一人でできないことも、協力したらできる。
★　計画性を大切に

課題に対して、ねばり強く挑戦するようになってきた。また、うまくできないとき、自分たちの取り組み方の問題点に自分たちで気づき、動こうとするようになってきた。
その結果、今までの一部の子だけではなく、いろんな子が自分から意見を出したり、動いたりするようになってきた。

＜９／２・３＞　エルボータッチ、ニータッチ、ビーイング箱形

２学期、こんな気持ちで過ごしたい！

＊　一人一人の自分の目標を持つことができたか。
　〇　自分に対して
　〇　人に対して
＊　一人一人の目標を明確にし、思いを共有することができたか。

〇ビーイング箱形

・９月２日、「自分に対して」と「人に対して」、自分はどうありたいかということをカードに書いて箱に貼った。それを、円形になって椅子に座っている全員で一周、まず両手でまわし、次に片手でまわし、その次に両足でまわした。そこまでは、あまり困難なくできた。いよいよ片足で！あまり作戦も立てずにまわし始めた。みんな椅子に座ったままでまわそうとする。何回もバランスを崩し、箱はひっくり返った。そのうち、いつも積極的に意見を出す一部の子どもたちが、他の人の所に箱が回っているとき、席を離れ下から支え始めた。他の子は、座ったまま。この方法を２～３回繰り返すうちに、片足で１周まわすという課題を達成した。しかし、子どもたちからは、喜びの声はなかった。

Ｔ：何回もやって、やっとできたんだけど、今の気分は？
Ｃ：別に、特に何にも感じん。
Ｔ：あんなに何回もやったのに？達成感は？
Ｃ：あんまりない。
Ｔ：どうしてなんでしょう。
Ｃ：Ｏさんだけがずうっと動いていて苦しそうだった。
Ｃ：ＲさんやＮさん、Ｈさんも意見出したり動いたりしたけど、他の人は、座ったままだった。
Ｔ：これが、このクラスの姿を現しているのですね。

・次の日（３日）に、もう１回、片足まわしに挑戦した。「裸足になったら？」「片足で床に着けたまままわしたら？」「立ってやってみよう」「下から支える人は座って、まわす人は立ったままにしたら？」いろんな意見が出た。みんなで挑戦する雰囲気が出てきた。

１回目の片足でまわす課題への挑戦のとき、はっきりとこのクラスの課題を解決していくときの実態が見えた。いつも積極的に意見を出し活動する数人。それにすっかり頼り、ただ待っていて、自分の役割だけを果たす他の子たち。これをはっきり認識するよい機会になった。これで課題を解決しても、みんなで解決したという喜びや達成感はない。この感情を大切にし、日々の生活につなげてほしい。

＜１０／１５＞　昼休みの出来事・・・

すっきりしない　～　すっきりさせようやあ！
＊　自分の思いを伝えることができたか。
＊　課題について、公平に、冷静に考えることができたか。
＊　友だちの思いを大切にすることができたか。

○前日、私は出張だった。「みんなで遊ぶ日」（子どもたちが決めたもの）だったので、話し合って昼休みに全員でソフトバレーをしたのだそうである。しかし、その時何かあったらしく、終わりの会の時に子どもたちで話し合ったそうであるが、まだすっきりしないとのこと。
Ｔ：じゃあ、すっきりさせよう。何のことかわからないけど、すっきりさせた方がいいから、すっきりさせよう。
Ｃ：うん、じゃあ後ろで輪になって話し合おうやあ。
私は、あえて子どもたちの輪の中には入らず、離れたところからそれとなく様子を見ていた。
（問題となっているのは、「遊んでいるとき、Ｈさんが打つチャンスがなくておもしろくないと言って、出ていった。」ということである。）
Ａ：Ｈさんは打つチャンスがないって言うけど、私らから見たらあると思った。
Ｏ：本人にとってないと思ったんだから、ないんよ。本人がやったことは悪かったけど、そこまで言うのはよくない。客観的に見たら打つチャンスはあった。でも、本人がないと思ったんなら、ないと思う。それを‘ある’っていうのは、聞いとっていや。
Ｒ：Ｈさんは、人から見たらあると思うけど、本人はものたりんかった。
Ｏ：Ｈさんはソフトバレーにするかどうかを決めるとき、いやって言えばよかった。抜けたくなったら、言えばよかった。言葉がたりんかった。

自分たちの中に問題が起こると、自主的に輪になって話し合おうとするようになってきた。子どもたちの話し合いを聞いていて、客観的なものの見方、その人の立場に立ったものの見方がずいぶんできるようになったと感じた。
この話し合いも、いつもの子たちが中心になって発言をしていたが、他の子たちも同調したりつぶやいたりして、話し合いの中に参加しているのを感じた。

＜１１／２６＞　アースボール

一人一人、参加しよう！！
＊　うまくいくことばかりではないことを受け入れ合うことができたか。
＊　結果ではなく、みんなで少しずつ課題達成に近づいていく楽しさを味わうことができたか。

○今までをふりかえり・・・
ビーイングを見ながら、今の自分とこのクラスをふりかえった。その後、
Ｔ：このクラスをもっといいクラスにするためには、さらにどんなことを大切にしたらいいと思いますか？
Ｃ：ルールを守ること。
Ｃ：計画性がまだ足りないので、計画性。
Ｃ：前よりはよくなったけど、「注意を聞く」

○アースボール
・作戦タイム
Ｏ：打った人が抜けていったら？
Ｙ：ボールを打つとき高く上げたらいい
Ａ：打った人が抜けるというのは？
多：いいと思う
Ｏ：あとは、バレーと一緒じゃね。
Ｒ：レシーブをするときは、強くやりすぎたらビューンといく。
Ｈ：力加減。
Ａ：もう１回確認しよう。「やった人から逃げる」「力加減を考える」「高く上げる」
Ｋ：それと、打ったら輪を小さくしたらええと思う。
～１回目の挑戦、失敗。そのまま数回挑戦を続ける～
Ｓ：抜けた人はどこに抜ける？待っていて、わからんかった。
Ｋ：抜けた人はその後ろに出ていって、抜けるたびに輪を小さくしていこう。
～再度、挑戦。何回かするが、できない～
Ｅ：ボールに力を入れとる人がおるけえ、小さくしたらええ。
～十数回挑戦した。やってもやってもできないけど、子どもたちは楽しそうだった。時間がなくなったので、「あと３回」と、挑戦回数を限定し、最高記録７人で終了～

・活動のふりかえり
Ｔ：いつもの４つの約束はどうでしたか？
～４つそれぞれに対して、一人一人が指で守れた程度を表す。４つすべて全員ばっちり～
Ｔ：あんなに引っかかったのに、楽しかった？
Ｃ：うん、すごく楽しかった！　（口々に）
Ｔ：自分が失敗したとき、どんな気がしましたか？
Ｍ：「あっ、やばっ！と思った。でも、別に攻められんけえ楽しかった。」
Ｙ：私が打ったらいつも変なところに飛んでいたけど、だれにも攻められんかったけえ、がんばろうと思った。

いろんな子が作戦タイムやふりかえりで発言したし、発言をしていなくても、友だちの言葉にみんなで相槌をうったり、反応したりしていた。いろんな子がうまくパスできずに何回挑戦しても課題を解決することができなかったが、ずっと子どもたちは声をかけ合い、楽しんで活動していた。途中であきらめたりふざけたりする子もいなくて、全員で一生懸命に取り組んでいた。この気持ちを大切にしながら、一人一人がもっと周りを見て気配り、心配りをしていくとよりあたたかい人間関係が作られると感じた。

＜１／１１＞班作り

みんなで班を作ろう！
＊　主体的に考え、学級の一員として意見を述べようとしたか。
＊　状況を見ながら動くことができたか。

○３学期、新しい班を作ろう
Ｔ：班の作り方、１学期や２学期は私が条件を言って（男女混合班であること、４つの班にすること、さみしい思いをする人がいないこと）、それからみんなが話し合って決めていましたが、３学期は、すべてみんなに任せるので、みんなでいいように班を作ってください。
Ｃ：後ろで円になろうやあ。
Ｃ：今まで同じ班になったことがない人がいいと思う。
Ｃ：うん、それがええ。でも、どうしよう
Ｃ：今の班の中で、「グー・チー・パー」でわかれたら？
Ｃ：それじゃあ３つになるけえ、「グー・チー・パー・ピョン」にしたら？
～各班で「グー・チー・パー・ピョン」をして、同じのを出した子が集まり、４つのグループに分かれる。～
Ｃ：このグループ、女子がおらんけえ、こっちの女子３人のところでジャンケンして変わってもええ？
Ｃ：ええよ
Ｃ：ここの班、女子が一人だし、ここは男子が一人だけど、一人でもええ？変わった方がええ？
Ｃ：別にこのままでもええけど。
～グループが決定し、班の席を決める～
Ｃ：ぼくらあ、目が悪くて、一番前の席希望の人が３人おるけえ、一人代わってほしい。前には二人しかすわれんけえ。
Ｃ：班の席を今まで見たいに縦にするんじゃなくて、横にしたら？
Ｃ：うん、ええねえ。気分も変わって、なんかおもしろい。

１５分足らずで班作りをすることができた。子どもたちが自主的に話し合いを持つようになってきた。話し合いの際、まだ依存的な子もいるが積極的に発言する子が増えてきた。また、その場その場で状況を見ながら柔軟に考えたり、発想を転換したりして話し合っており、スムーズに班作りをしていくことができた。
そんな中で、決して強引に進めているわけではないが、みんなの意志を確認せずに進めていることもあり、何回か、「みんなそれでOKなのですか？」と、私の方から確認した。
みんな協力的ではあるが、まだ、友だちに頼っている子もいる。積極的に発言し動く子数人のおかげで物事が進み決まっているところがある。一人ひとりが集団の一員として主体的に動くようになってほしい。

＜１／２３＞　道徳「差別について考える」

「差別」について考える
＊　身近な差別について考えることができたか。
＊　自分の考え・思いを率直に伝えることができたか。

○児童への事前の「差別」についてのアンケートをもとに、「差別」について学習した後、自分自身が「差別」されていると感じているものを出し合う時間をとった。

（Ｉさんは、最近ずいぶん友だちとうまく関われるようにはなってきたが、まだ、お互いに少し壁がある。Ｉさん自身は、もっとみんなと楽しく気楽に遊んだり話したりしたいという願いが強いが、それがなかなかうまくできない。前日、母親から手紙をいただいた。「娘が元気がないので尋ねたら、友だちと遊んだり話したりできるようになったけど、何人かの人は、私への接し方が違う。あまり話してくれない・・・と言うので、話を聞いてやってください」と）

〇一人の子が自分から思いを伝え、みんなで考えた。Ｉさんが自分から今の思いを話してくれないかなと思ったが、自分から話すことは難しいようだったので、私からＩさんに声をかけた。

Ｔ：Ｉさん、何かみんなに伝えたいことがあるのでは？みんな、ちゃんと聞いて考えてくれるから、話してみたら？

Ｉ：え～っと・・・私が友だちと話すときと他の友だちと話すときでは、なんか接し方が違うような気がします。

〇Ｉさんは、勇気を出しながら一生懸命話してくれた。

Ｃ：えっ、どういう意味？

Ｉ：えっと・・・・・（どういっていいのかわからない様子。）

Ｔ：Ｉさんとはあまりたくさん話してくれないけど、他の友だちとはいっぱい楽しそうに話しているって感じ？

Ｉ：はい。

Ｔ：みんな、今のＩさんの話してくれたことについて、みんなはどう思いますか？何か言いたいことがある人、いますか？

Ｋ：Ｉさんだけ接し方を変えているつもりはないけど、Ｉさんに話しかけてもＩさんは少ししか話さないので、あんまり話が続かないけど、他の人に話しかけたらいろいろ楽しい話をしてくれるので、話が盛り上がるから・・・

Ｔ：そうか・・・それぞれ人によって、話のうまい人下手な人もいるし、少しのことからどんどんいろいろ思いつく人もいれば思いつかない人もいるからねえ。ということは、Ｉさんだけに接し方を変えている訳じゃないってことなんですね。

（数人、おおきくうなずく）

Ｃ：あっ、ええこと考えた！Ｉさん、変身したらええんよ！

Ｃ：それがええ、話ながら踊り出すとか、アチャー！と叫ぶとか、そしたら、楽しくなるじゃ。

Ｃ：うん、私なんか、適当に思いつくことしゃべりよるだけじゃもん。

C:：そうよ、わけわからんこと言うもん。

・・・・・いろんな子どもたちが、楽しそうに話し始めた。

Ｔ：Ｉさん、今の考え、どう思う？

（Ｉさん、首をかしげた。でも、顔はにこにこ、楽しそうにみんなの言葉を聞いていた。）

〇次の日・・・Ｉさんの日記「今日はどんな日？」より

（Ｉさんは、２年生の時に転校してきた子。その頃からうまくみんなに馴染めず、また、友だちも受け入れようとせず、孤立していた。４月当初は、円を作ってもＩさんの両側は大きく隙間が空いていたし、Ｉさんと組もうとする子もいなかった。）

☺ **今日のローポイント**

ありません。

☺ **今日のハイポイント**

今日の５時間目の道徳で、私はすごく元気が出てすごくうれしかったです。５年になって、一番うれしかったです。

☆感じたこと、考えたこと、伝えたいこと・・・

題【生きててよかった】

私は生きていてよかったと思うことがいっぱいあります。それは、いろいろな友だちと仲間になれるのがうれしいからです。

きまりは何のために？

＊　自分たちで決めたきまりを理解し、主体的に活動しようとしたか。
＊　きまりの必要性に気づくことができたか。
＊　集団の一員としてルールを守ることの大切さに気づき、実践していこうとする気持ちを持つことができたか。

【道徳教育におけるAFPYの有効性】　　～「小学校学習指導要領解説　道徳編」より

〇指導の基本方針

・道徳の時間

「・・・道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳実践力を身に付けていく時間である。」

・信頼関係や温かい人間関係を確立する。

学級での温かい交流があって、効果が発揮する。児童と教師の信頼関係や児童相互の人間関係を育て、一人一人が自分の感じ方や考え方をのびのびと表現することができる雰囲気を日常の学級経営の中で作っていくことで、学級には一定の道徳価値が生まれてくる。

・教師と児童及び児童相互の関わりなどを通して、児童自らが自分自身への問いかけを深めていくことによって、自分や社会の未来に夢や希望を持ち、意欲的に生きていくための力を身につけていくことができるようにする。

・道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める要となるように工夫する。

多用な体験活動を生かした授業を工夫

・児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合うという姿勢を持つ。

〇学習指導の多用な展開

・体験活動を活かすなど多用な学習指導の構想

体験を活かすなどの学習指導

様々な道徳的価値に触れ、感じ、考え、心を動かしている。その心の動きと道徳の時間における指導とが響き合うようにしていくことが大切。

・・・コミュニケーションを深める活動、感性や情操を育む体験等

〇道徳教育の内容〔第５学年及び第６学年〕

～特に有効だと思われるもの～

１　主として自分自身に関すること。

（２）より高い目標を立て、希望と勇気を持ってくじけないで努力する。

（３）自由を大切にし、規律ある行動をする。

２　主として他の人との関わりに関すること。

（２）だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。

（３）互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。

（４）謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。

（５）日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。

４　主として集団や社会との関わりに関すること。

（１）身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

（２）公徳心を持って法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。

（３）だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。